

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
令和元年度 4～5 月

○ 概要

- (1) 令和元年 5 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,111 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）+0.9%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 9,008 円（伸び率+3.6%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が 1,586 億円（伸び率+0.2%）、薬剤料が 4,514 億円（伸び率+1.2%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 891 億円（伸び率+11.4%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,376 円（伸び率+3.4%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.79 種類（伸び率▲0.3%）、24.4 日（伸び率+2.4%）、79 円（伸び率+1.3%）であった。（→P.8,9）
- (3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,647 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）+27 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 675 億円（伸び幅▲14 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+56 億円（総額 336 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,647 億円 (+27 億円)	21 循環器官用薬 (675 億円)	11 中枢神経系用薬 (638 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(589 億円)
0 歳以上 5 歳未満	26.4 億円 (▲2.8 億円)	44 アレルギー用薬 (11.1 億円)	61 抗生物質製剤 (5.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	74.6 億円 (+0.9 億円)	44 アレルギー用薬 (28.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (19.9 億円)	61 抗生物質製剤 (6.5 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,260 億円 (+7 億円)	11 中枢神経系用薬 (272 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(219 億円)	21 循環器官用薬 (201 億円)
65 歳以上 75 歳未満	869 億円 (▲12 億円)	21 循環器官用薬 (189 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(170 億円)	42 腫瘍用薬 (107 億円)
75 歳以上	1,417 億円 (+35 億円)	21 循環器官用薬 (281 億円)	11 中枢神経系用薬 (241 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(195 億円)

- (4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,008 円（伸び率+3.6%）で、最も高かったのは高知県（10,726 円（伸び率+3.8%））、最も低かったのは佐賀県（7,767 円（伸び率+3.3%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは山形県（伸び率+5.3%）、最も低かったのは山梨県（伸び率+1.4%）であった。（→P.31~32）

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注)}	78.0 %	+3.8 %
薬剤料ベース	19.7 %	+1.8 %
後発品調剤率	74.4 %	+2.8 %
（参考）数量ベース（旧指標）	54.5 %	+3.2 %

注)【後発医薬品の数量】/（【後発医薬品のある先発医薬品の数量】+【後発医薬品の数量】）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+11.4 %	+18.8 % (20 歳以上 25 歳未満)	+2.5 % (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.7 %	22.6 % (0 歳以上 5 歳未満)	13.3 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	78.0 %	80.8 % (60 歳以上 65 歳未満)	69.7 % (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	785 億円 (+76 億円)	21 循環器官用薬 (247 億円)	23 消化器官用薬 (104 億円)	11 中枢神経系用薬 (97 億円)
0 歳以上 5 歳未満	7.6 億円 (+0.3 億円)	44 アレルギー用薬 (2.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.4 億円)	61 抗生物質製剤 (1.4 億円)
5 歳以上 15 歳未満	15.5 億円 (+1.8 億円)	44 アレルギー用薬 (8.8 億円)	61 抗生物質製剤 (2.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	268 億円 (+30 億円)	21 循環器官用薬 (70 億円)	11 中枢神経系用薬 (46 億円)	44 アレルギー用薬 (33 億円)
65 歳以上 75 歳未満	191 億円 (+13 億円)	21 循環器官用薬 (76 億円)	23 消化器官用薬 (24 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(20 億円)
75 歳以上	303 億円 (+30 億円)	21 循環器官用薬 (101 億円)	23 消化器官用薬 (50 億円)	11 中枢神経系用薬 (35 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,314 円	1,717 円(北海道)	1,113 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+14.3 %	+17.3 % (東京都)	+10.6 % (鹿児島県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	78.0 %	86.9 % (沖縄県)	71.0 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.7 %	23.4 % (鹿児島県)	17.1 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	74.4 %	81.8 % (沖縄県)	69.4 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	54.5 %	63.4 % (沖縄県)	49.9 % (徳島県)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和元年5月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。